

# Shake Hands 常滑国際交流協会



第126号 2020年1月28日発行

〒479-0837 常滑市新開町 5-58 電話・FAX：0569-34-4797

E-メール：ホームページ：<http://www.japan-net.ne.jp/~tia/>



## 国際理解講座

### 講演会「常滑高校の国際理解教育～ラオスとの交流を通して」

常滑高校では、2014年に外務省のJENESYS 2.0で生徒19名と教員2名がラオスを訪問してから、ラオスとの交流を続けています。日本ではあまり馴染みのないラオスという国について少しでも知っていただき、生徒たちは研修旅行でどんな活動をしているのか、またラオスの人々との交流を通して学び考えたことなどを、画像や映像も使いながら、また参加した生徒たちも交えて、お話をさせていただきます。

愛知県立常滑高等学校 英語科教諭 榊原麻起子

日時：2020年3月14日（土曜日）10：00 ～ 11：30

会場：常滑商工会議所 東館 2階 会議室（常滑市新開町 5-58）

※ 参加無料で事前申込もありません。どなたでも結構です。気楽にご参加ください。

※ 駐車場は商工会議所の南側と道路を隔てた西側にもあります。

〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内 **常滑国際交流協会**  
電話・FAX 0569-34-4797 メール [tia@japan-net.ne.jp](mailto:tia@japan-net.ne.jp)

「グローバル化」と「国際化」という言葉は、ニュースや新聞記事などで頻繁に使われています。どちらも「日本の海外との関係が深くなり、より影響を受けるようになる」という同じ意味の言葉として使われることも多いようです。しかし、厳密には概念として大きく異なるようです。

日本で国際化と言う言葉が使われる様になったのはいつ頃からでしょうか。現在使われている国際化とは「日本がもっと海外に開かれて、海外と積極的に意識疎通のできる国にしよう」という意味のスローガンだと思います。このスローガンはバブル経済の崩壊後に、企業が世界で生き残ってゆく詰まった戦略におよぶまでもなったような気がします。

この戦略の一部を端的に言えば、英語を話し、海外と交渉のできる人を育成することでした。国際化をしようとする企業では、会社案内やカタログなどを英語で作成したりすることから、海外からの人材やまたは海外でのビジネス経験者を導入して、その企業の海外での活動を促進しようとするなど、いろいろと試みられました。

しかし「国際化」という言葉が使われるとき、「ご挨拶」や「～方針」を飾る言葉として使われ、結局それが掛け声だけに終始していて、みんな国際化を目指すことはいいことだと思っても、それをどの様に実行したらいいのか分からずに、なんだか言葉だけが空回りしている様な気がしてなりません。国際化なんて結局は言葉だけのことじゃないかとも思えてきます。国際化と西欧化とを取り違えている人も多いようです。

日本語の国際化という言葉には、たくさんあるさまざまな国（nations）との国同士あるいは国と国の関係で、国家の存在を前提として、相互の交流を活発にしていこうという強い意味が強いです。明確に国境をもつという点において「グローバル化」と異なります。英語では“internationalization”と書きます。接頭辞の“inter-”は「～の間、～の中で、相互に」という意味、“national”は「国民の、国家の、国家全体の」という意味を持ちます。

近年、大はやりなのは「グローバル化」です。「グローバリゼーション」や「グローバル化」という言葉が、メディアにあふれています。日々のビジネスの場でも、グローバル化とかグローバル対応といった話題が日常茶飯に使われています。「グローバル化」は「グローバリゼーション」とも言い、英語では“globalization”と書きます。“globalization”には、“globe”の「球、地球、全世界、地球儀」といった語感が含まれています。そのため、どこかの国家を中心に考えるのではなく、地球全体を俯瞰しているイメージになります。

ひとりの「国際化」ではなくて、なぜ「グローバル化」なのでしょう？ どちらも国内だけでなく、いろいろな国との関係が深くなるという意味では、大差がないはずなのにと感じることはありませんか？ 実は、インターネットではなくてグローバルが頻繁に使われるようになったのには、非常にはっきりした理由があるようです。

今、使われている「グローバル」という言葉の語感には、個々の国を寄せ集めた集合体としての国際社会とか、国と国、あるいは民族と民族の集まりというイメージは非常に希薄で、地球を1つの塊として、個々の国や大陸、民族の集まりとしてではなく、この地球という星を1つと見る世界観が凝縮されているようです。「グローバル化」が進むと、国の内外における違いがなくなり、より便利で効率的なことが一つのスタンダードになっていきます。そして、国境はあっても、内側と外側で事実上の違いがなくなっていきます。

世界全体で「グローバル」に活動している企業を「グローバル企業」と言います。具体的には、Apple、Google、Facebook、Amazonなどの企業が代表的なグローバル企業です。グローバル企業は、世界各国で展開しているために、資本力もあり、優秀な人材も集まります。そのため、私たちの生活に、既に当たり前のように根付き、大きな影響を与えています。

「グローバル化」と「国際化」は、普通に暮らしていると、違いを体感することは少なからずありません。しかし、実際には概念として大きく違います。違いを理解しておきましょう。（市原 昌）

## 2019 TSIE 受入事業



### 鬼崎北小学校受入事業

谷川友美子

インド：シティーモンテソーリ校 児童8名 リーダー2名

10月4日（金）～22日（火）までの19日間のインド受入事業が無事終了しました事を報告させていただきます。

レゴランドへのバス旅行、常滑高校での陶芸、絵付け体験、まるさい着付け体験、トヨタ産業技術記念館への遠足、西浦南小、鬼崎南小へのショートステイ等、派遣団は様々な貴重な体験をさせていただきました。



### 三和小学校受入事業

浜島泰代

タイ：プラサーンミット校 児童6名 リーダー2名

10月6日（日）～20日（日）までの15日間のタイ受入事業が無事終了しました事、報告させていただきます。

三和っ子ランド探検、とこなめ焼きお地蔵さんづくり、とこなめ山車まつりへの参加、雨のレゴランド、まるさい着付け体験、小鈴谷小へのショートステイ、リトルワールドへの校外学習、派遣団は様々な場所で様々な体験をさせていただきました。



インド受入、タイ受入事業にお力を貸して下さった全ての皆様に感謝申し上げます。

## 常滑東小学校受入事業を終えて 常滑東小国際交流委員会委員長 阿曾 亜季子

秋の暖かさが残る 11月23日の深夜、マレーシア・バンダーアングリッ小学校の派遣団（リーダー2名・派遣児童6名）がクアラルンプールを飛び立ちました。その夜はドキドキしながら眠りにつき、翌朝セントレアに出迎えに行きました。到着ゲートにて笑顔でホストと挨拶を交わす派遣団、やっと対面できた…という気持ちになりました。期間は2週間でしたので毎日予定が沢山でした。また派遣団がカルチャーショーやクラスレッスンを披露した時、東小の児童が目を輝かせて一緒に参加してくれる姿を見た事がこの国際交流の一番の醍醐味でした。そして無事、12月7日に帰国しました。この受入事業にご協力・ご支援をして頂きました全ての皆様に、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



5-2 大野 桃芭  
最初はきんちょうしたけど Youtube を二人で一緒に見てたくさん笑ったことでとても仲良くなりました。マレーシアのことを全然知らなかったけど、食事やお祈りのことを知ることができました。また NS ちゃんに会いたいです。

3-3 小栗 杏丸  
終わってみたら本当にあっという間でした。言葉はわからなかったけどとても楽しかったです。イドリス先生の言葉がわかるようになりたいと思いました。マレーシアにもクレヨンしんちゃんのアニメがあると聞いてびっくりしました。

4-1 石澤 瑛音  
ユスフを受け入れて僕自身が成長出来ました。コミュニケーション能力も高くなりました。豚肉を食べない生活が意外と大変だとわかりました。なかなか出来ない貴重な経験が出来て良かったです。

### ホストファミリー体験記

5-3 牧 大慊  
エミールが来る前はコミュニケーションが取れるかとても心配だったけど、会ったら気を遣ってくれたので僕も声がかげやすかったです。エミールが途中ホームシックになり泣いてしまった時はたくさん声をかけてあげればよかったと思いました。滞在中は英語で会話してくれました。英語を習っているので、コミュニケーションが取れてよかったです。2週間は短いと感じました。

6-2 長谷 海人  
私はムザファルの受け入れをしました。たくさんの場所へ行きました。一番楽しかったのはボーリングです。どっちの方がいいスコアを取れるか対決しました。結果私が三点差で勝ちました。すごい接戦で楽しかったです。

4-1 平松 叶帆  
プテリがクアラルンプールに帰ってから1ヶ月がたち、今何をしているんだろうと思っています。11/24~12/7で楽しかったことがいっぱいありました。ホストファミリーに入ってよかったと思いました。

3-1 石井 颯馬  
僕は、初めてホストをしたので、最初はドキドキしてけど、とても楽しかったです。先生と一緒に登校したり、ご飯を食べたり、休みの日には新幹線にも乗りました。今度は僕がマレーシアに行って、また先生に会いたいです。

6-2 目片 朝海  
私はキスティナと一緒にご飯を作ったり、ゲーム等をして過ごしました。キスティナはチョコカがすごく得意でした。ねる前にたくさんお話ししました。私はキスティナと行った「ビーチランド」が一番の思い出です。